

春望 しゅんぼう

杜甫 とほ

国破れて山河在り
 城春にして草木深し
 時に感じては花にも涙を濺ぎ
 別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
 烽火三月に連なり
 家書万金に抵る
 白頭搔けば更に短く
 渾べて簪に勝へざらんと欲す

国 破 山 河 在
 城 春 草 木 深
 感 時 花 濺 涙
 恨 別 鳥 驚 心
 烽 火 連 三 月
 家 書 抵 万 金
 白 頭 搔 更 短
 渾 欲 不 勝 簪

- 1【春望】春の眺め。
- 2【国破れて】国の都が破壊されて。
- 3【城】城壁で囲まれた都市。「国」はともに当時の都、長安（現在の陝西省西安市）を指す。
- 4【時に感じては】時世のありさまに悲しみを感ずる。
- 5【烽火三月に連なり】戦乱が三か月間続いている。「烽火」は戦闘で用いるのろしの火。
- 6【家書】家族からの手紙。
- 7【白頭搔けば更に短く】頭の白髪はかくたびに抜け落ちて薄くなり。
- 8【渾べて簪に勝へざらんと欲す】全く簪をさすこともできないほどだ。
- 9【簪】はここでは冠を留めるピンのこと。

◆杜甫 [712-770] 中国の唐時代の詩人。厳格で規律正しい作風で、時代を反映した叙事詩に優れていた。李白の「詩仙」に對し、「詩聖」と称された。〈詩の原文は「漢詩選9 杜甫」による。〉

漢詩の世界

学びの道しるべ



目標

漢詩の表現やリズムを捉え、読み味わう。
 漢詩に描かれた情景を捉え、古人の心情を想像する。

内容を整理する

1 語句の意味や構成などに注意して音読し、内容を捉えよう。

読みを深める

2 三編の漢詩について、それぞれ次の観点から読みを深めよう。
 ① 作者はどこにいて、何を見聞きしたか。
 ② そのときの作者はどのような心情か。

自分の考えを深める

3 三編の漢詩の中から、自然を表す表現を抜き出そう。それらは、描かれた情景の中でどのような効果をあげているだろうか。考えたことを文章に書き、交流しよう。

学びを振り返る

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。
 振り返りのキーワード 漢文のリズム・情景・心情

学びを広げる

好きな漢詩を選び、現代語の詩に作り替えよう。

【この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう。】

私の本棚

漢詩入門
 一海 知義



漢詩へのいざない

漢詩への招待
 石川 忠久



気ままに漢詩キブン

宮 足立 幸代
 監修 三上 英司

